

平成24年度いもち病防除のチェックポイント

平成24年度も以下の点に注意して、いもち病防除を確実にを行い、被害を未然に防ぎましょう。
現在の基幹品種（ななつぼし、きらら397、ほしのゆめ、ゆめぴりか、きたゆきもちなど）は、いもち病に弱い。

耕種的防除

●本田（置き苗の処分）

補植用の置き苗は、苗が混んでいるため、いもち病が発病しやすく、危険な伝染源となる。不要な置き苗は、すばやく、堆肥化するなど適切に処分する。



●畦畔（ゴミ処分）

代かき後畦畔に上げたゴミを適正に処分する。

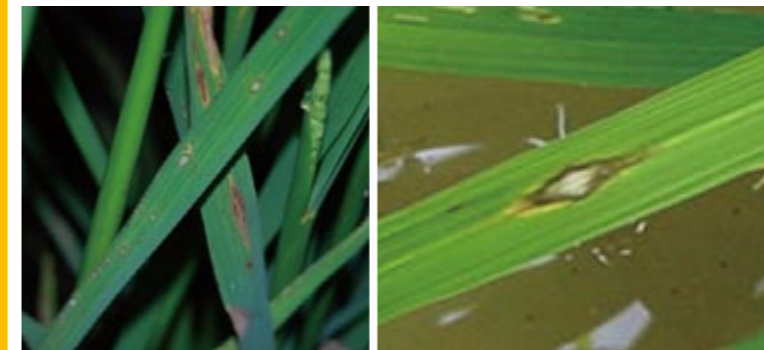


- ◎不要な窒素追肥を控える。
- ◎ケイ酸資材を投入して、稲体を丈夫にする。

早期発見のチェックポイント

●水田内見回り時期

- ブラスタムを活用し効率的に
- ◇感染好適日の約1週間後に見回り
- ◇幼穂形成期5日後頃は見回り強化
- ◇病斑を発見したら、直ちに茎葉散布を行う。



葉いもち病斑

●見回り場所・方法

- ◇いもち病が発生しやすい場所を観察
 - ・ 去年の発生場所
 - ・ 葉色が濃い場所
 - ・ 風通しが悪い場所
- ◇株をかき分け下葉を重点的に観察

本田防除のチェックポイント

	6月	7月	出穂	8月
いもち病発生消長		葉いもち		穂いもち
①茎葉散布		(○) 臨機防除①	◎ 基幹防除	(○) 臨機防除②
②水面施用+茎葉散布		←○→ 水面施用剤	◎	(○)
③箱施用+茎葉散布		(○)	◎	(○)

- 常発地や感染しやすい条件にある場合は、箱施用や水面施用剤を利用する。
- 基幹防除は必ず実施する。
- 臨機防除は発生状況に応じて実施する。
臨機防除①：出穂前に病斑を1つでも発見したら、すぐに防除を実施する。
臨機防除②：葉いもちが多く出穂が長引く場合は7日間隔で追加防除を実施する。
- MBI-D剤（商品名：デラウス・ウィン・アチーブおよびこれらを含む混合剤）による防除効果の低下が懸念される場合は、同剤の使用を避ける。